# 地元団体との協働による横町スタジオの 運営と研究活動

# 県内大学を対象とした関わり続ける 定住の実践と定着

※ 本節では、この2テーマを一括して報告する

#### 0.はじめに

本稿は、大野市連携協定に基づいた「関わり続ける定住のカタチによる結の故郷づくりの基盤的研究」における、横町スタジオ拠点整備・運営補助業務その1の業務報告書である。下記に業務の概要を記す。

業務期間:令和4年4月1日~令和4年9月30日

場所:横町スタジオを拠点とした大野市での取り組み

担当:一般社団法人カンデ 三浦

報告書作成者及び文責:一般社団法人カンデ 三浦

## 1.横町スタジオ拠点整備・運営補助業務の目的

本業務は、地域拠点横町スタジオの継続と取り組みの発展を目的としている。一般社団 法人カンデは、横町スタジオの運営を行う地域団体「横町編集部」と連携し、持続的な運 営の実現を目指し、さまざまな取り組みを実施した。

- 1.地元住民と学生による交流事業「横町スタジオお茶会」等の実施補助
- 2.地元住民と大学生の交流活動として「空き家リノベーション」の実施及び支援
- 3.地元住民と横町スタジオの運営検討として「横町まちづくり定例会」の実施及び支援
- 4.地元中高生と協働し、まちづくり活動を実践する企画の運営補助
- 5.脱炭素社会に向けた事業の実施および計画策定の支援

# 2.業務の内容

名称	日程又は期間	活動内容
横町スタジオ拠点	4月-9月	・家賃、光熱費等の支払い。
整備・運営補助		・拠点の維持管理。
		・浄化槽整備、点検。
		・予算の管理。
		・自治会との連携。
		・毎朝のラジオ体操の実施。
	5月-8月	・横町スタジオ空き家リノベーション「看板制
		作」プロジェクトの実施。
		・横町本棚、ガチャコーヒー、駄菓子販売、閲
		覧ブースの設置。
	4/28,5/27,6/14	大野市との連携協議の実施。内容は、プロジェ
	6/27,7/6,7/13	クトの進捗の共有及び相談。
	7/19,7/26,7/29	大野市との連携協定において、(仮) 地域留学事
	8/3,8/15,8/23	業提案の計画策定の協議。
	9/13	
	全6回 毎月第	市民の声を聞くお茶会の実施。または、バザー
	3 土曜日	と連携した「持ち寄る日」の企画。
	5/11	大野市連携協定定例会議 @関西大学
		大野市職員2名、大学職員2名、教員3名、横
		町編集部1名、学生1名
	5/15,7/18,9/25	横町スタジオ運営会議の実施。
	6/8,9/16	福井工大清水准教授、社会連携部訪問。
	4/4	福井大学 野嶋教授訪問。
	4/16	長岡高専赤澤准教授訪問。
	全6回/月一回	横町通信の発行
	毎日投稿	SNS インスタグラムにて、活動の情報発信。
		https://www.instagram.com/onoyokomachistudio
		/
	9/15	ふくい SDGs パートナーに登録。
	4/20	福井安心安全パートナーに登録。

市民活動の活性化	9/30	・マッスル出版サークルの活動
支援	,, , ,	自費出版物の制作
<b>~</b> 100	4/07.0/6.0/7	
	4/27,8/6,8/7	・リアル脱出ゲームサークルの活動
	9/3,9/4	
	4月-9月	・ミミズコンポストサークルの活動
		日吉町一区生ゴミ処理活動。
		ミミズコンポストの商品化に向けた設計、施
	F. D. C. D.	I
	5月-6月	・上庄小学校ミミズコンポスト設置プロジェク
	C /0 A T /1 T /0 A	
	6/24,7/1,7/24	ミミズコンポスト視察公開の実施。
	7/21	
	6/20,9/16	・大野市消費者グループとゴミ処理について意
		見交換会。
	- /0 / 0 / 0 - 0 / 10	・福井県池田町へ視察。
	5/26,8/27,9/12	・まちづくりゼミの実施
	9/22	・TOP interview 10 年後の大野を考える 企画実
		施。https://note.com/arashima_/
	6/25	横町スタジオ 5 周年イベントの実施。
	6/24,7/10,8/3	スタジオシェアキッチンの利用
	8,16,9/23	
	6/25,7/12,7/19,	・横町通り盆踊りの実施
	8/9	・道路使用許可申請
	7/4,7/25-8/5	RICOH ハンディ樹脂センサーの活用によるプ
		ラスチック使用量分析の実施。
	8/12,8/13	大野市主催移住相談会の実施。
	8/29-8/31	大野市主催空き家合宿の実施。
	9/1,9/10,9/29	横町スタジオワークショップ 2022 の企画
	4/13,5/27,6/1	私が未来の市長プロジェクトにて、高校生の提
	6/13,	案助言。
	6/30,7/1,7/4	まちなか自習室 社会実験プロジェクトの実施。
	9/12	まちなか自習室持続に向けた運営検討会実施。
その他	7/9	小浜市にて、取り組みの講演。
	随時	学生の研究支援。
	1	

#### 3.業務の成果

2017年に始まった大野市と関西大学の地域連携は5年が経過した。これまでの5年は、拠点づくりと地域との関係づくりの二つが大きなテーマであった。R4年度からは、これまでの活動を元に、関わっている人全てが成果を出せる仕組みと運営体制を構築し、活動の持続性を高めることが主題になると考えている。一般社団法人カンデでは、昨年度実施した横町スタジオの運営団体「横町編集部」の立ち上げ支援・運営検討会を経て、今年度から、横町編集部との協働が実装している。この運営モデルは、関西から遠く離れた貴学の連携協定の事例として、一般社団法人カンデが提案するものである。

本モデルの提案の肝は、学生が地域に関わり続けられる環境整備として、継続的に地域 拠点を運営することを目的としたものである。それは、人口減少が続く大野市において、 まずは次代の担い手となる若い世代が地域に関わることが、新陳代謝を生み地域を更新す る兆しであると考えるからだ。したがって、学生が地域に関われる環境を整備すること が、連携協定の社会的意義として挙げられるだろう。

本報告書では、大学が地元団体と協働で研究活動や地域活動を進めるというモデルとして、その効果を検証してみたい。

#### 3-1 江川直樹教授の退官に伴う研究体制・拠点運営体制の課題

これまで横町スタジオを運営してきた江川研究室が解散したことで、学内の研究の受け 皿は北詰教授となった。研究室あるいは教員に紐づいた拠点のままでは、持続的な運営モ デルを形成しているとは言い難い状況である。その観点から、これまで横町スタジオが担 ってきた活動を以下の「研究」と「拠点運営事業」に役割を分けるモデルとした。

- ・研究・・北詰研究室、岡研究室
- ・拠点運営事業・・地元団体の横町編集部に委託。拠点の研究環境の整備、学生と地域との関係作り、市民活動の活性化支援、及びまちづくり活動を行う。学生のみならず、地元住民も運営に関わっている。また、研究室に所属していない現役学生と、これまで大野に関わってきた OB の受け皿としての役割も期待できる。

そのため、学生は、①研究室に所属する。②一社カンデ経由で横町編集部の取り組みに参加する。上記2通りの選択肢があることになった。しかしながら、②については、大学の正規の活動として位置付けられていないため、現状「課外活動」という整理になる。課外活動となれば、たとえば活動中に怪我をした等の非常時に、大学の対応が不明瞭なのは課

題である。地域連携が機能し、非常時に学生の人権が守るためにも、学生の活動の位置づけは急務であり、今後の連携協定の大きな課題であると考える。

## 3-2 学生が中長期滞在で大野に滞在する上での課題

横町スタジオでの活動は、関西大学佐治スタジオ、だんだんテラス、コノミヤテラスといった他の地域拠点と比較して、中長期滞在が特徴である。ここでは、現在参加学生の滞在中の活動の様子について考察したい。

#### □学生について

大学院 M 2 二名、M 1 二名、学部 B 4 二名が横町スタジオを拠点に、横町スタジオの取り組みに参加している。

M2の学生は、月一回/一週間以上大野に滞在し、その他は、授業の関係から $2\sim3$ 日の滞在を行なっている。

特に M2の学生は、一度の移動時間・交通費・予算を考慮して、中長期滞在を選択している。中長期滞在は、歴代の学生を見ても定番化しており、実際に現地に住まう中で、住民との関係を築き、研究やプロジェクトを進めるスタイルが定着しつつある。

とはいえ、学生の生活費の負担が大きく、支援体制が構築できていないのが現状の課題である。現在は、現地でアルバイトをするなどそれぞれの工夫に頼っており、学生の負担が大きい。しかし、M2にもなると、研究及び活動する上でも、期待以上の成果を出しているという観点では、「雇用」しても良いのではないだろうか。どのように雇用するかはさておき、ここで述べたいのは、学生が見ず知らずの地で、空腹や睡眠不足で辛い思いをせず、活動に専念できる体制構築が、地域のためになるということである。これは、横町編集部とも議論して、中長期、地域で滞在できる体制づくりを進めたいと考えている。

ひいては、少しでも支援体制を整えることができれば、若手の育成につながり、よりいっそう成果が出せて持続可能な運営モデルになるのではないかと考える。

#### 3-3 まとめ

大学と地域団体との協働モデル形成に挑戦したことで、いくつかの課題が見つかった。 いずれも簡単ではないが、大学、研究室、学生、行政、地元団体、OB、住民の役割の明 確化および成果が出せる仕組の構築をすることで、これまで以上に持続性を高めたい。今 後地元と協働してアップデートしなければならないテーマは、

- ① 研究室だけに依存せず、多様な入口で大野に関われる仕組みの構築と環境整備
- ② これまであまり議論されなかった、安心して滞在できる雇用の創出 この2点と考えている。引き続き提案していきたい。

## 4. 今後の展望

3-3を考慮し、横町編集部として、地域連携に提案した企画書を今後の展望として示す。

#### □現状分析・問題/課題点

これまでの学生は距離・交通費の面から、中長期滞在を選択してきた傾向にあり、すなわち地域に住むことで、学び、実践し、議論し成果をあげてきたと言える。これを「地域留学」と位置づけ、今後の大野と関西大学、あるいは全国の大学生や若者との交流を考えたい。一方で、留学は、海外留学のイメージが先行するが、令和二年度は、前年度と比較すると邦人留学生の総数は98%減少していて、留学の選択肢が狭まっていると言える。

#### □企画の概要

海外留学の目的の大半は、語学取得である。したがって、語学に取って代わる留学の目的を提示できれば、地域留学には一定数のニーズがあるものと仮定する。横町スタジオを拠点に、横町編集部が受け入れをおこなう。留学生は、大野の社会を観察して企画立案から実施までを自身ないしはチームで行うプロジェクト型の留学をおこなう。

#### □具体的な内容

例えば地域留学で学べることは、「農業」「デジタル」「脱炭素」など、自治体の実態に即した社会性のあるテーマが考えられる。またプロジェクトを行うと「段取り力」「企画力」「コミュニケーション力」「管理力・調整力」など、社会実務的な能力取得が可能となる。さらに、国内にあることから、故郷のような留学先をめざすことで、海外留学とは違いを作りたい。つまり、大学卒業後も、OBとして気軽に大野に学べるあるいは関われる仕組みを構築することで、持続的な事業になると考える。

#### □得られる効果・メリット

- ・関係人口の拡大および多種多様な人材の育成・発掘。
- ・地方の良さ、魅力にふれる機会および大学のない大野での大学生の関わりしろ創出。

#### □予算スケジュール

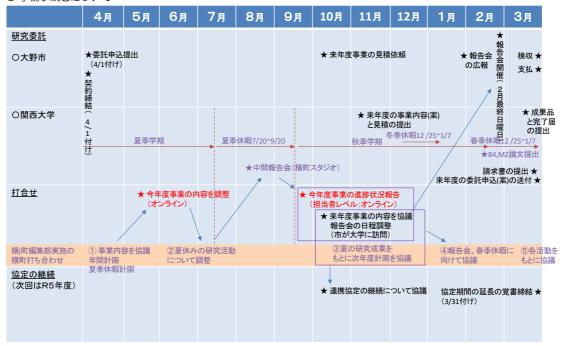
- 10月 大野市と関西大学の定例会にて發表
- 11月以降 大野市職員、市民、大学職員、教員などで、ワークショップをおこない、アイデアの募集と合意形成をおこなう。 $\rightarrow$ R5年度 連携協定の延長、事業化
- □参考 地域みらい留学

https://c-mirai.jp/

#### 大野市と関西大学の連携協定

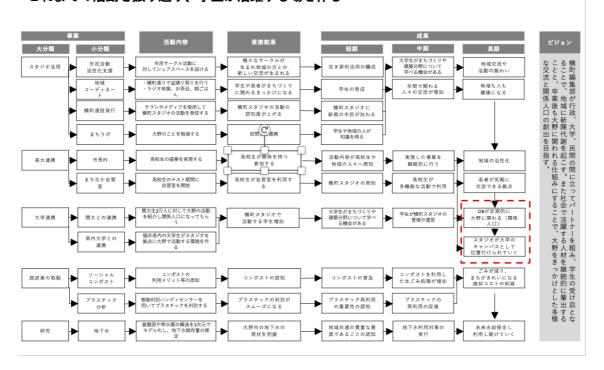
220320

#### ○ 事務手続きについて



□議論の土台となるこれまでの活動の振り返り図

# これまでの活動を振り返り、学生が活躍する場を作る



## □キャリア形成のイメージ

さらに、地域留学生を、大野が連携している企業へのインターン等のキャリアサポートを行うことで、官民学連携の先進事例にする。



## □拠点イメージ

2004年に発足した関西大学建築環境デザイン研究室は、今年で16年を迎える。地域再編まちづくりにおける拠点形成型関西大学モデルにおいて、これまでに365日オープンの4つの地域拠点(下記③④⑥⑥)の立ち上げ・運営を行い、「地域が良くなるための活動および研究」を積み重ねてきた。本稿では、関西大学と各地域、各地域同士の関係を同時に



# 5.資料集

・活動状況の写真

写真1 サークル活動の様子



写真2 サークル活動の様子 リアル型脱出ゲーム

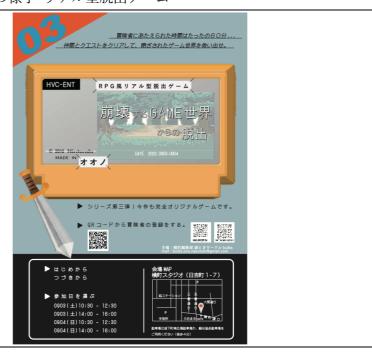


写真3 空き家リノベーション 看板作成



写真4 移住者相談会の様子



写真 5 持ち寄る日の様子



写真6 サークル活動の様子 リアル型脱出ゲーム



写真7 まちなか自習室の様子



写真8 横町盆踊り大会の様子



写真9 横町盆踊り大会の様子



写真 10 リコープラスチックセンサーを活用した建材調査



写真11 上庄小学校ミミズコンポスト設置の様子



写真12 横町本棚の様子



写真13 空き家合宿の様子



写真14 空き家合宿の様子



写真15 空き家合宿講評会の様子



写真16 関西大学にて開催した定例会議の様子



#### 0.はじめに

本稿は、大野市連携協定に基づいた「関わり続ける定住のカタチによる結の故郷づくりの 基盤的研究」における、横町スタジオ拠点整備・運営補助業務その2の業務報告書であ る。下記に業務の概要を記す。

業務期間:令和4年10月1日~令和5年2月28日

場所:横町スタジオを拠点とした大野市での取り組み

担当:一般社団法人カンデ 三浦

報告書作成者及び文責:一般社団法人カンデ 三浦

# 1.横町スタジオ拠点整備・運営補助業務の目的

本業務は、地域拠点横町スタジオの継続と取り組みの発展を目的としている。一般社団法 人カンデは、横町スタジオの運営を行う地域団体「横町編集部」と連携し、持続的な運営 の実現を目指し、下記の取り組みを実施した。

- 1.地元住民と学生による交流事業「横町スタジオお茶会」等の実施補助
- 2.地元住民と大学生の交流活動として「空き家リノベーション」の企画および実施補助
- 3.地元住民と横町スタジオの運営検討として「横町まちづくり定例会」の実施及び支援
- 4.地元中高生と協働し、まちづくり活動を実践する企画の運営補助
- 5.脱炭素社会に向けた事業の実施および計画策定の支援

# 2.業務の内容

名称	日程又は期間	活動内容
横町スタジオ	10月-2月	・家賃、光熱費等の支払い。
拠点づくり事業		・拠点の維持管理。
		・浄化槽整備、点検。
		・予算の管理。
		・自治会との連携。
		・毎週水曜日 13 時~17 時常駐。
		・毎朝のラジオ体操の実施。
		・報告会の実施。
	10月-11月	・横町スタジオ空き家リノベーション-小上がり
		計画-
		・横町スタジオ閲覧ブースの設置。
	10/5,10/11,11/2	大野市とのプロジェクト進捗共有および連携事
	12/5,12/6,1/25	業全体に関するビジョンの作成。
	1/26,2/16	担当:政策推進課奧村氏
	8/11	地元商店の不用品を扱ったバザーの実施。
	8/28,9/17,18	バザーとお茶会の実施。
	9/18	バザーと連動した「持ち寄る日」の企画。
	10/16,11/20,	アップサイクル型マルシェ「持ち寄る日」の実
	12/18,1/15	施。
	2/19,3/19	うち3回は地元宿泊施設での写真展、出張カフ
	毎月第三日曜日	ェ、横町スタジオでのものづくり WS と連動し
		た企画の実施。
	12/26,29	ものづくり WS【番外編】の企画、打ち合わせの
		実施。
	1/13	株式会社ラコームでの打ち合わせと工場見学。
	2/19	ものづくり WS【番外編】の実施。
	10/27	大野市連携協定定例会議 @関西大学
		大野市職員(山崎課長、奥村氏)、大学職員(宮
		部氏、宮越氏)、教員(楠見氏、北詰氏、江川
		氏)、横町編集部1名(三浦)、学生3名
	10/11	関西大学地域連携部と来年度事業についてオン
		ライン打ち合わせの実施。
		政策推進課奧村氏、地域連携部宮越氏

	毎日投稿	SNS インスタグラムにて、活動の情報発信。
	一切   一切   一切   一切   一切   一切   一切   一切	https://www.instagram.com/onoyokomachistudio
	変更)	/ / www.mstagram.com/onoyokomacmstudio
横町スタジオ	10/15	/   周遊型謎解きイベント「横町秋の収穫祭」モニ
拠点づくり事業	10/13	
サークル活動支		参加者:4名
	11/12,13	
援	11/12,13	周遊型謎解きイベント「横町秋の収穫祭」実施
		参加者:11/12(土) 大人19名小人2名
		11/13(日) 大人 10 名
	0/10	(福井新聞掲載 11/11)
	2/12	周遊型謎解きイベント「雪の精霊と2月のお菓
		子泥棒」実施
	40 0 0 0	参加者:9名
	10月-2月	ミミズコンポストサークルの活動
		日吉町一区生ゴミ処理活動。
		ミミズコンポストの商品化に向けた設計、施
		工。
	11/11	市内工務店とコンポストづくりに関する意見交
		換の実施。
	11/18	市内工務店と共同設計の実施。
	1/30	KAJISO プラザにて展示の打ち合わせ。
	2/15-19	KAJISO プラザにて展示会の実施
	10月-2月	上庄小学校ミミズコンポスト設置プロジェクト
	10/20,12/13	出前授業の実施。
	12/22	横町本棚活用に関する打ち合わせの実施。
	12/20	奥越明成高校にて、持ち寄る日協力依頼のため
		の打ち合わせ実施。
	10/15	横町盆踊り大会の振り返り会の実施。
横町スタジオ	10/17-18	荒島旅舎にて写真展の実施。当日は持ち寄る日
エリアマネジメ		と共同開催。
ント事業	10/7	私が未来の市長プロジェクトにて、高校生の提
		案助言。
	11/16	中間発表に出席。
	9/26,10/26	しくじり大学生活の企画、打ち合わせの実施。
	11/9	大野市役所と大野高校で打ち合わせの実施。

横町スタジオ	12/1	大野高校へチラシの配布。
エリアマネジメ	12/13	大野高校でワークショップの周知の実施。
ント事業	12/17	人数が集まらず、ワークショップ中止。講師の
		方と意見交換会の実施。
	1/18	稲津邸 空き家調査の実施。
	2/18	荒島旅舎にてまちなかステージの参加。
横町スタジオ	10/24,12/19	大野市との連携協定において、(仮) 地域留学事
関係人口創出	12,26,2/22	業提案の計画策定の協議。単位認定授業開発に
事業		関する意見交換の実施など。
		担当:地方創生アドバイザー内海氏、政策推進課
		奥村氏
	10-2 月	・TOP interview 10 年後の大野を考える 企画実
		施。https://note.com/arashima_/
		荒島旅舎桑原氏との共同事業
	10 月	笹島漆器工芸に取材および原稿作成
	12 月	山本総合会計事務所に取材および原稿作成
	2月	上田農園に取材
	2月	ふくい SDGs パートナー原稿作成
	10/8	鯖江市のイベント RENEW にて講演。
	10/19	福井市の建築家山田氏の視察受け入れ対応。
	10/29	高浜町明日 BASE へ視察。
	11 月	熊本県南小国町にて WS の実施。
	10-2 月	敦賀市にて WS の実施および成果報告集作成。
	11/12-13	尾鷲市おわせ暮らしサポートセンターへ視察。
	11/26	篠山市にてコンポスト制作 WS の実施補助。
	12/2	日中友好協会と意見交換の実施。
	12/3-4	高浜町建築家藤本氏の視察受け入れ対応。
	随時	学生の研究支援。

#### 3.業務の成果

平成 29 年,関西大学は「関わり続ける定住のカタチによる結の故郷づくり」基盤的研究を開始.同年,地域拠点横町スタジオを開設した. 1 年間の活動に基づいて,大野市と関西大学は,翌年の平成 30 年に連携協定を締結.本稿では,活動から 5 年が経過したプロジェクトの現在地と,令和 4 年度の活動を報告する.

フィールドとなる大野市は、止まらない人口減少に伴い、地域経済衰退の危機に直面している。一方、福井県全体で見ると、中部縦貫自動車道の開通、北陸新幹線の延伸によって、三大都市圏とのインフラが接続されようとしている。同時に、デジタル田園都市構想や地方創生のような、地方に目を向けようとする動きも見られる。大野市においては、このような内的、外的な流れを契機として地域再生を実践し、これからこの場所で住まうことの豊かさを考えねばならない。

迫る現実と期待が入り混じっている大野市において,横町スタジオを活用して地域再生の実践と検証を続けていきたい.結論から述べると,これからの横町スタジオは"大野に関わる入口"と位置付け,いろんな思考や背景を持った多様な人々が集まる「次の準備をする港」のような場所を目指したい.これまでは,工学部の研究として大学が運営してきた拠点だが,地域の変化やニーズに応答するには持続性,事業性,主体性に欠けることが明らかとなった.次世代の地域と大学の連携のあり方の検討として,仮に上述した課題を地域側が担うことで解決した場合,大学側は研究や教育,あるいは事業として地域連携にどんな価値を見出すか,吟味する必要性が高まってきている.

次の出発点として、"人とモノが循環するリノベーション"による拠点運営によってこれまで培ってきた環境を、「広く開かれた"場所"」「チャレンジしたい"人"と応援したい"人"」「交わる"機会"」「社会課題解決に向けた"企画"」という簡単ではあるが四点に絞り整理を試みた。より詳しくいうと、拠点として整備したハードと、それを動かす月に一度のマルシェや横町通信の発行、毎朝のラジオ体操等のソフト、さらにハードとソフトが連動する横町編集部のシステムを学生以外にも拡げることを試みたい、とくに、建築環境デザイン研究室で大野に関わった48名のうち、半分以上が卒業後に大野に遊びにきていることが調査により明らかになっている、初年度の卒業生は、今年30歳を迎え「三十路らしい地域との関係性を築きたい」と述べ、例えば、卒業生が空き家を取得して別邸とし、その管理を現役の学生にバイトとして依頼する、といった提案が浮上している。これは、中長期滞在する学生にとっても、生活費を現地で稼ぐことは課題となっているため解決に向けた有効な方法と考えられよう.

さらに今年度は、大学院2年生の2名が大野の研究に携わり研究予算の確保から挑戦した.1

人は、マルシェで得た収益の一部を生活費や活動費に充て、もう1人は、市の補助金を取得して全五回のものづくりワークショップを企画するなど、拡がりを見せている。このように、一人一人のスキルが向上し経験を積んだことによって、約20年ぶりの横町通りの盆踊り大会を自治会と協働開催を達成し地域再生の糸口を掴んだ。当日は、人が人を呼び、横町通りが人で溢れかえる光景となり、古くからいる住民が「関大がきて大野が変わった」と述べ、これまで学生が担っていたラジオ体操参加の声かけや、横町通信の配布等を進んで手伝ってくれるようになるなど、筆者としても手応えを感じた一年だった。また、地域の若者が集う傾向も見られてきた。

# 4. 今後の展望

余談ではあるが,卒業生の一人が「大野は故郷のような優しい響きのする場所ではない.」と述べたことがあった.大雪の年に住み込み研究していたこともあるが,地域課題を目の当たりにして,真摯に向き合った卒業生だった.たしかに,答えを求めて地域に関われば関わるほど,問いは深くなる一方である.ある意味,地域側に受け皿があれば,大学が用意した卒業という出口を越えて,卒業後も地域に関わることができる.卒業に縛られず,自分次第で出口を設定できるのが,複雑な課題を有する地域連携ならではなのかもしれない.そのような厳しさと,「港」という言葉が大野のイメージと合うような気がしている.それに,盆地にある港というのも矛盾していてオリジナリティが合って良い.

活動開始から5年が経過し、開設当初とは社会もずいぶん変わったように思う.その一つとして直面する課題は学生の大野への入口の整備と、受け入れ体制の構築である.挑戦したい企画や熱意のある学生が大野に集まるきっかけを如何にして作り出すか、引き続き実践を積み重ねていきたい.

# 5.資料集

・活動状況の写真

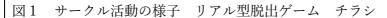




写真2 サークル活動の様子 リアル型脱出ゲーム



# 図3 サークル活動の様子 リアル型脱出ゲーム チラシ



写真4 サークル活動の様子 リアル型脱出ゲーム



写真5 ミミズコンポストサークルの活動の様子



写真6 持ち寄る日の様子



写真7 上庄小学校での出前授業の様子



写真8 自治会の餅つき大会の様子



写真9 まちづくり研究報告会の様子



写真 10 持ち寄る日の様子



写真11 コンポスト開発



写真12 持ち寄る日主催のワークショップの様子



写真13 持ち寄る日主催のワークショップの様子



写真14 持ち寄る日と同時開催 荒島旅舎にて写真展の様子



写真 1 5 TOP interview 取材の様子



図16 報告会チラシ



写真17 出張持ち寄る日の様子 福井駅前にて



写真18 KAJISO プラザにてパネル展の様子



#### 0.はじめに

本稿は、大野市連携協定に基づいた「関わり続ける定住のカタチによる結の故郷づくりの 基盤的研究」における、横町スタジオ拠点整備・運営補助業務その3の業務報告書であ る。下記に業務の概要を記す。

業務期間:令和5年1月10日~令和5年2月28日 場所:横町スタジオを拠点とした大野市での取り組み

担当:一般社団法人カンデ 三浦

報告書作成者及び文責:一般社団法人カンデ 三浦

## 1.横町スタジオ拠点整備・運営補助業務の目的

本業務は、地域拠点横町スタジオの継続と取り組みの発展を目的としている。一般社団法 人カンデは、横町スタジオの運営を行う地域団体「横町編集部」と連携し、持続的な運営 の実現を目指し、下記の取り組みを実施した。

また、その2業務が取り組み内容を明らかにしたものに対して、その3業務は、令和4年 度の実態調査や仕組みの構築、および事業の整理を行うものとしてすみ分けした。

- 1. 関わり続ける定住による結の故郷づくり事業 5年間の成果報告および関係人口ビジョンの作成
- 2. 地元住民との協働による横町スタジオ運営団体・横町編集部の活動継続支援
- 3. 関西大学まちづくり研究報告会の実施補助
- 4. 令和5年度の活動計画作成の支援
- 5. 横町編集部情報発信事業「横町通信」の作成および配布補助

# 2.業務の内容

名称	日程又は期間	活動内容
地域留学ビジョ	1月-2月	学生が大野に関わるビジョンの共有を目的に作
ン作成		成。
関係人口ビジョ	12月-2月	2017 年度からこれまで大野市に関わった卒業生
ンの作成および		に対する調査および関係人口ビジョンの作成。
ヒアリング調査	2月	卒業生二名へのヒアリング調査の実施。
		横町編集部関係者へのヒアリングの実施。
横町スタジオの	1月	横町スタジオの取り組みの実態調査。
取り組みの実態		および事業の整理。
調査		
まちづくり研究	2月	チラシの作成。
報告会	2/26	報告会会場の設営。
		当日の司会進行。
		横町編集部の発表 PPT の制作補助。
情報発信	毎月25日発行	横町通信の作成および配布。
	全六回	
	随時	Instagram 活用による横町スタジオの活動周知。

## 3.業務の成果

### □地域留学ビジョンの作成

横町スタジオの環境を活かして、今後も継続的に学生が大野で活動するためのビジョンの 作成を目的として提案を試みた。



図1.メインビジュアル

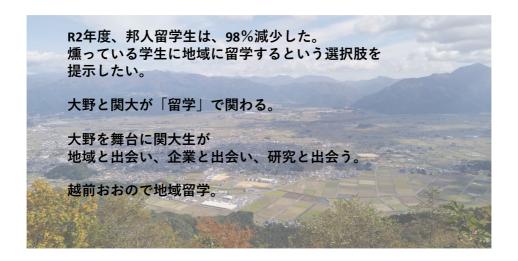
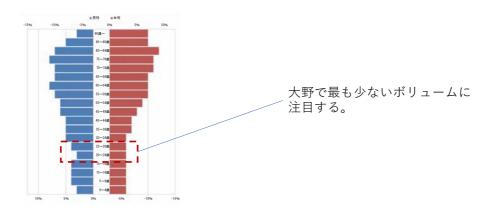


図 2.メインビジュアル

## ①大学が関わることで、「人口のバランスを整える」



大野には大学がない。これは、18~24歳が育つ「生息地」がないということ。 一方、関西大学には3万人の学生が在籍し、まだ発掘されていない才能や 田舎暮らしに憧れる若者が眠っている状態だ。大学2~3年の間、現地で挑戦 したい若者を募集し、社会課題の解決に向けて活動できる体制が必要だ。

### 図3.背景の整理

## これまでの活動を振り返り、学生が活躍する場を作る

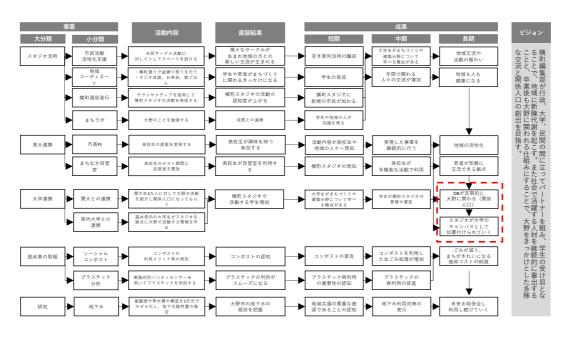


図 4.これまでの取り組みを整理

地域団体との協働による関西大学拠点形成型研究モデル@大野市 の提案

R4年~5年計画策定からR6年開始までのスキーム

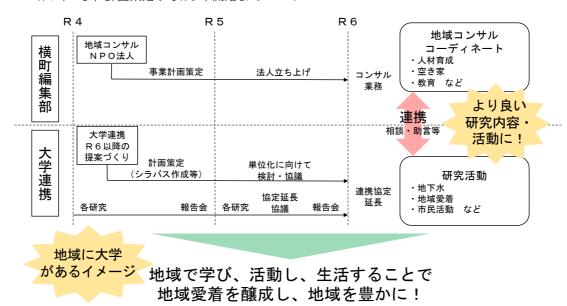
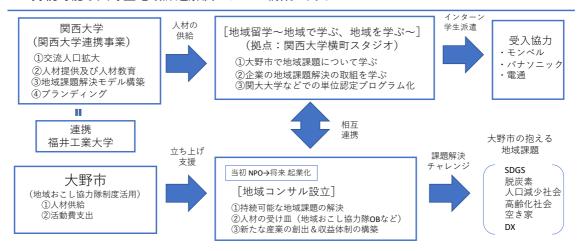


図 5.スキームイメージ

地域団体との協働による関西大学拠点形成型研究モデル@大野市 の提案

持続可能な大野型地域課題解決モデルの構築に向けて



## 年間事業費 1,650,000 円

これから10年間で、学生が大野に関わり続けられる環境を作る。

## ①OB基金 7,000円/年×100人=700,000円

- O OBは、卒業後に、横町編集部の会員になる。
- B 10年後は、100人のOBが、7,000円/年の支援をする仕組みにする。 主に横町スタジオの維持管理に使う。

## ②大学生交通費補助金 300.000円

市が、従来のように大学に支払う補助ではなく、企画と実行ありきの 活躍してくれる学生の活動に支払うものとする。

## ③企業版ふるさと納税 学生の研究費 300,000円

地元住民が、横町編集部を活用して、地域のまちづくりを行うために支払う会員費。主に、住民の地域活動に使う。

# ④横町編集部会員 5,000円/年×50人=250,000円

間 地元住民が、横町編集部を活用して、地域のまちづくりを行うために支払う会員費。主に、住民の地域活動に使う。

学 **⑤その他 スタジオシェア事業収入など 100,000円** 生 学生が運営するスタジオで得た収入。拠点整備に使う。

図 7.財源確保のイメージ

民

□関係人口ビジョンの作成およびヒアリング調査

前章の地域留学提案を経て、横町編集部として関係人口事業を立ち上げるにあたり過去の 卒業生の調査や、横町編集部関係者へヒアリングを行った。



図8.メインビジュアル



図 9.関係人口創出数

## 連携事業での関係人口は、「関係の強度」に着目

- ①過去5年間で大野に関わったことがある。(5回以下)
- ②過去5年間で大野に卒業後を含めて5回以上関わったことがある。
- ③過去5年間で大野に滞在して中長期で継続的に関わったことがある。



単に大野に滞在するだけではなく、地域の人に関わっているかがポイント。

図 10.関係人口の整理

過半数②、③は卒業後に大野にきている

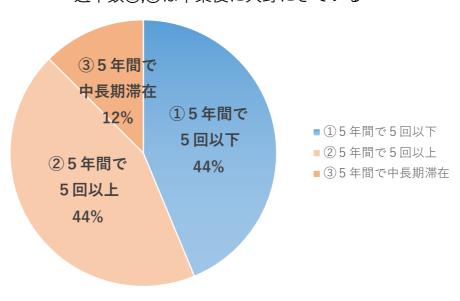


図 11.卒業生の調査

## 私が考える関係人口創出のポイント!



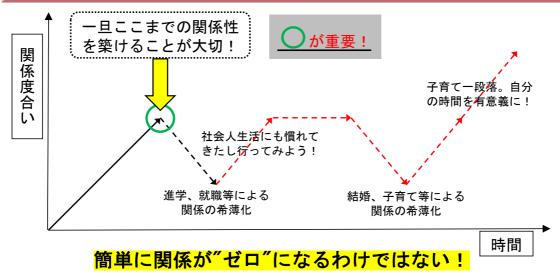


図 12.関係人口の中長期イメージ

□横町編集部の関係者にヒアリング調査。

今後、横町編集部が受け皿となって関係人口の受け皿になるためにこれまで関わった人へ の調査から方向性を明らかにすることを目的とした。

#### ・地域住民 30 代男性

小学生から大人まで幅広い世代と活動を行っており、人が集まり、地域活性化を行っていると感じました。また、Instagramでの発信を行うことで、地域の方が情報を簡易に把握でき、活動発信することで、横町スタジオはどういった場所であるか、活動を行っているのかさらに把握しやすくなったと思います。

### ・卒業生 20 代男性

大野には一月のうち一週間滞在しており、滞在費が必要になることが懸念点でした。そのような時に、近所の飲食店の方にアルバイトをさせていただきお金を稼ぐこともあり、自分のような若者を必要としてくれていることが嬉しく感じました。

私の後輩が大阪の大学から新たに大野に関わる時、同じように大野でお金を稼ぐことが 出来れば中期の滞在のハードルも低くなり、また、仕事を通じて大野の人と関わるきっかけ が生まれるのではないかと感じます。

#### ・卒業生 20 代女性

大野に関わって行こうと決めたとき、「自分自身で何かやってみたい、自分が地域に対して貢献したい」という漠然とした想いだけがありましたが、そのために何ができるかを模索し続けた 1 年でした。編集部の活動は特に決められたカリキュラムや研究テーマがあるわけではないため、自らの問題意識や興味、地域への関わり方にじっくり向き合うことができました。さらに、企画書を書き予算を取って、地元企業や住民と打ち合わせし、実行する一連の流れを経験できたことで、自分自身で物事を判断し進めていく力がついたと感じます。これが研究室や大学といった組織の枠組みにとらわれない、横町編集部の仕組みの良いところであると考えます。

次に、大学生のうちに地域で働く大人たちと出会えたことで、自分はどうやって生きていきたいか?の問いに対してたくさんの答えがある(その実例がある)ということを目の当たりにしました。これは就職活動に悩んでいる後輩たちにもぜひ知ってほしいと思います。

最後に、入れ替わりの激しい大学生を優しく受け入れて下さり、いつも気にかけて下さった住民さんと、私たち大学生 1 人 1 人に向き合い、活動をサポートして下さった三浦さんに感謝を伝えたいです。3 月で大学院を卒業しますが、ここで繋がりが無くなってしまうわけではありません。大野と大阪の 2 拠点生活を通して「離れていても関わり続ける定住のかたち」の可能性が見えはじめてきたところです。これからも大野が自分のフィールドの一つとして、いずれ大野で仕事を作れるような社会人になりたいと思っています。

## ・地域住民 20 代女性

看板制作や持ち寄る日、ものづくり WS などのイベントに携わらせていただき、大変充実 した 1 年でした。仕事をしているだけではかかわれなかった地域の方々ともコミュニケー ションがとれて面白かったです。横町スタジオは自分にとっての創作活動の拠点であり、心 の拠り所になっていると感じます。いつもありがとうございます。

横町編集部の取り組みには「ラジオ体操」から始まり、「ガチャコーヒー」や「持ち寄る日」、「ミミズコンポスト」など、人を惹きつけるアイデアが豊富で感銘を受けます。加えて、それらが持続している現状に驚かされます。物珍しさで人を呼ぶのは簡単ですが、習慣化していくまでには、根気強くかかわる力と観察力が必要だと思います。それらの努力を感じさせない気さくな雰囲気は、横町編集部の皆さんの人柄が醸し出すものだと思います。地味に支えている、縁の下の力持ちだと尊敬の念を抱いています。

日々何処かしらが変わっている横町スタジオが今後も存続していくことに期待し、私自身も楽しくひたむきにかかわれたらよいなと思います。

これからもよろしくお願いいたします!

### ・地域住民 40 代男性

大野のにぎわい創出のきっかけをつくる場所としてまちなか商店街のメイン通りにホステル「荒島旅舎」の企画・運営をしています。横町スタジオは荒島旅舎から徒歩3分。このホステルが旅人、何かを始めたい人が訪れるのに対し、横町スタジオはそこに住む人に溶け込み、地域コミュニティを大学生が一緒になって再構築・進化させていると感じます。最近では社会課題に対して気づきを与えるワークショップも開催し、実践として地域外とのつながりや、社会とのつながりをつくる場所としてすごく期待しています。その横町スタジオの三浦くんと一緒に 2022 年の夏に大野の経営者に大野の未来についてお話をお聞きする「TOPinterview」という企画をスタートさせました。現在6事業者の方のお話をお聞きしているなかで、大野で「働く」ということ、「まちづくり」の考え方、課題など毎回新しい気づきがあります。この企画を通して、これからの世代に対して大野の仕事伝える機会を作ることの必要性を感じ、今後実践していきたいと思います。

横町と荒島、2つの場所に共通しているのは県内外から多様な年齢層のいろんな人が訪れる場所であることです。大野にはいないような新しい考え方の人もたくさん関わってくれてきています。この新しい風をうまく仕事や賑わいに吹き込むことができると、もっと大野は面白くなりそうです。

これからもいろいろなきっかけを一緒につくっていきたいと思います。

### □横町スタジオの取り組みの実態調査

現在の横町編集部の事業整理をすることを目的とした。三つの事業に分類ができる。

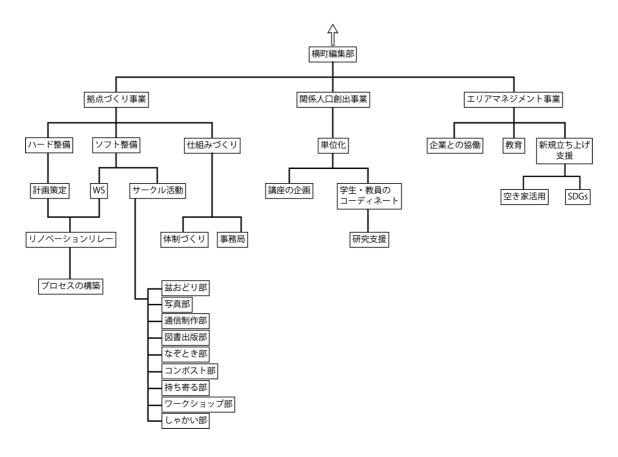


図 13. 2023 年の横町編集部の事業図

## 横町編集部のなりたち

	2017	2018	2019	2020	2021	2022
環境の構築	活動拠点の開設	活動拠点の整備 建築がまちにどの。	よ <i>うにかかわれるか</i> ; 土間ステージ改修			
築	• 地元交流会	<ul><li>お茶会</li><li>スタジオ開放</li><li>ラジオ体操</li></ul>	• 各種ワークショップ		• シェアハウス検討	
システ	建築環境デザイン研究室(江川ゼミ)			移行期		
, ムの 整備		横町編集部構想	運営団体 立ち上げ検討会	横町編集部発足	事業開始 映画試写会事業、サークル支援事業	

図 14.横町編集部の成り立ちを整理した図

### □まちづくり研究報告会にて横町編集部の位置付けと目的の整理

## これまでの活動の拡がり

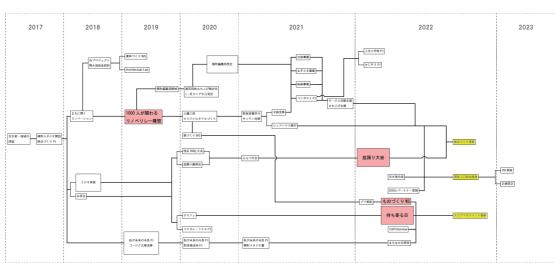


図 15.現在の事業と成り立ちから、横町編集部の活動年表を作成した

### □情報発信

### ・横町通信による先月の活動報告のアーカイブと来月の予定発信。

自治会を中心に、毎月25日に横町通信の配布を行っている。毎月の予定や、活動報告などを中心に記事を作成。主に自治会の方への情報発信を目的としたが、毎号100部印刷したことにより、アーカイブとしての効果もある。また、学生の自己紹介の側面もある。

## ・インスタグラムを使った SNS 発信。

約4ヶ月でフォロワー1,000人達成し、現在約1,150人(3/6時点)。

サークル活動の広報やWSの報告レポートなどを発信することで、横町編集部の活動に興味を持つきっかけづくりと、活動への継続的な参加につながっている。

#### 4. まとめ

#### □横町編集部について

横町スタジオは、取り組み開始から5年が経過し、今年度はその活動整理を試み、次年度以降につなげること注力した。大野市職員の異動、教員の退官、学生の卒業など、人が入れ替わる事業であることを前提に仕組みの構築やビジョンの共有に関しても、現場に拠点を置く横町編集部にストックしておくことが現在の最善の方法に思う。そういう意味では、横町編集部は、さまざまな取り組みによって仮説検証を繰り返し、実態を変える役割に加えて、仕組みを構築する役割も担うことになる。まちの実態と仕組みを変える団体というとやや大袈裟に聞こえるが、今年度はそのような動きができたように思う。具体的な成果としては、現地で細かく大野市と打ち合わせしたができたことで、行政としての事業に対する想いを受け取り、一方で大学側の理論に基づいた提案を作ることができたことだろう。これからも大学、行政、市民の間に立つ団体と位置付けかつ現地に拠点を置くことで、大野と大阪の物理的な距離を解消し、お互いのビジョンを共有できる調整役になれると考える。

#### □地域おこし協力隊との連携について

来年度は、地域おこし協力隊との連携について吟味したいと思う。協力隊の業務と横町編集部の事業で共通点、接点があれば、積極的に支援していきたいと考えている。現在も関西大学以外の地域住民の活動を支援している実態があることから、地域のために活動する取り組みに対しては積極的に支援し、成果を出せる仕組みに変えていきたい。今後は地域おこし協力隊とも連携できるカタチで市と協議し、検討を進めたい。

加えて、横町編集部の取り組みも少人数では対応できないくらい広がっており、地域おこし協力隊と連携して成果を出すことができれば、人的な不足を解消できると考えている。

### □課題の整理

人的不足の解消が23年度の課題のように思う。これから事業が広がっていくにあたり、確 実に人不足になることは明らかなことから、横町編集部としては、活動する人の増加を目指 し、実態を変えたい。一方で、大野市とは三浦に代わる人材の育成や募集について協議した いと考えている。